

愛知県三河地域の新型コロナウイルス感染症影響下における保育の実態

渡部 努*

要 旨

愛知県三河地域の新型コロナウイルス感染症影響下における保育の実態を調査するため、岡崎市、蒲郡市、田原市、知立市、豊田市、西尾市の幼稚園、保育所、こども園を対象にアンケート調査を実施した。その結果、新型コロナウイルス感染症対策については、その場面や子どもの状況に応じて、保育者が模索しながら取り組んでいること、マスクの着用や保育活動中の感染症対策については、子どもの負担にならないように配慮しながら行われていること、これまで当たり前に行われてきた活動や行事が制限される中、子どもの育ちにとって必要な経験と感染症のリスクを天秤にかけながら、その都度、保育者が判断し、保育が営まれていることが明らかになった。

キーワード：新型コロナウイルス感染症、COVID-19、保育、愛知県三河地域

I. はじめに

2019年12月に中国で発見された新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)を引き起こし、その感染は急激に世界に拡大した。WHO(世界保健機関)は2020年3月11日にパンデミック(世界的大流行)に相当すると発表した。その後も世界各地で感染が広がり、感染者数は2億5000万人を超えている¹⁾。日本国内でも2020年1月に初めての感染者が確認された。感染は拡大し、2020年4月7日に東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の7都府県に緊急事態宣言が発出され、4月16日には全国に対象が拡大された。さらに、当初の宣言の対象とした7都府県に、北海道、茨城、石川、岐阜、愛知、京都の6道府県を加えた13の都道府県は、特に重点的に感染拡大防止の取り組みを進めていく必要があるとして、「特定警戒都道府県」と位置づけられた。

子どもへの影響としては、2020年2月27日に日本政府から、小・中学校、高等学校等に対し、臨時休校の要請がなされた。その後、日本全域に緊急事態宣言が発出されたことに伴い、多くの学校は6月頃まで休校の処置を取ることになった。また、保育所やこども園においても、休園の処置や登園の自粛を

要請するなどの対応が取られた。

新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、マスクの着用や三密の回避、SOCIAL DISTANCE、テレワークといった言葉に代表されるようにコロナ禍の社会の中においては、新しい生活様式が求められるようになった。

このような新しい生活様式が求められる中、幼児教育・保育においては、子どもが常にマスクを着用することや、子どもと保育者、子ども同士が常に距離を取ること、遊具や玩具等を共有しないこと等は難しく、保育の方法についても試行錯誤を繰り返しながら進められている。さらに、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、施設内の消毒、保護者等が参加する行事の中止や実施の制限等も行われてきた。また、施設内の子どもや職員が新型コロナウイルス感染症に罹患した場合は、臨時休園にする等の処置も行われてきた。

愛知県においては、これまで3度の緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が取られており、新型コロナウイルス感染者数の累計は国内で5番目に多く、10万6800人を超えている(2021年11月28日現在)²⁾。2021年10月に入ると、県内の感染者数は100人を下回り、感染者数は低水準を維持しているが、新たな変異株が発見されるなど、新型コロナウイルス

*岡崎女子短期大学

に関する影響は今後も継続されることが推測される。

そこで、本研究では愛知県三河地域における保育の現状や新型コロナウイルスに対する対応等の実態を調査し、今後も必要とされる新型コロナウイルスへの対応策を考えるための基礎的資料とすることを目的とした。

II. 研究方法

1. 調査対象

愛知県三河地域の岡崎市、蒲郡市、田原市、知立市、豊田市、西尾市の幼稚園、保育所、こども園を対象にアンケート調査を実施した。

最終的に 157 園からの回答を得ることができた。

2. 調査時期

2021 年 7 月～8 月

3. 調査方法

アンケート調査の実施においては、各市の幼稚園や保育所、こども園を管轄する部署に依頼を行った。承諾を得られた後、アンケート調査の実施要項を各市の担当部署に送付し、各園には担当部署より e-mail にて配信をした。

アンケート調査は、実施要項に記載された URL、または二次元バーコードより、Microsoft Forms にアクセスし、web 上で回答を行うものとした。アンケート調査実施要項に記載した説明には、同意した場合のみ、回答をするよう明記した。回答は任意であり、入力された結果をもって、同意を得られたものとした。

4. 調査内容

新型コロナウイルス感染症の影響下における保育の実態を把握するため、先行研究を参考に、以下の項目を設定した。

- (1) 施設概要
- (2) 消毒について
- (3) マスク着用について
- (4) 生活場面の感染予防対策について
- (5) 園の行事の感染予防対策について

5. 倫理的配慮

調査は無記名とし、アンケート調査実施要項及び web 回答画面の冒頭に、回答は研究以外の目的には

使用しないこと、回答は任意であること、プライバシーの保護を厳守すること、調査協力に対して随時撤回できることを明記した。

尚、本調査は、岡崎女子大学・岡崎女子短期大学研究倫理委員会の審査において、承認を受けている（通知番号 48）。

III. 結果と考察

1. 施設の概要

(1) 施設の種別と園児数

本調査の回答を得られた施設の属性を表 1 に示す。

施設の種別においては、公立保育所（70.7%）が最も多く、次いで、公立認定こども園（8.9%）、私立保育所（7.6%）であった。本アンケート調査は、各市の幼稚園や保育所、こども園を管轄する部署に依頼をして、実施したため、公立施設（86.6%）が多くの割合を占める結果となった。その他の回答として、子育て支援センター等の回答があった。

施設の園児数では、「120 人以上 200 人未満」（33.8%）が最も多く、次いで、「60 人以上 120 人未満」（28.7%）、「20 人以上 60 人未満」（19.1%）であった。

種別において、公立保育所が多く、偏りが見られたが、施設の種別の違いにより、新型コロナウイルス感染症の影響による保育の違いが大きく見られないと判断したことから、すべての回答を対象に以下の分析を進めていくこととした。

(2) 幼稚園教諭又は保育教諭、保育士以外の職員の配置

幼稚園教諭又は保育教諭、保育士以外の職員の配置について、複数回答で回答を求めた。結果を図 1 に示す。

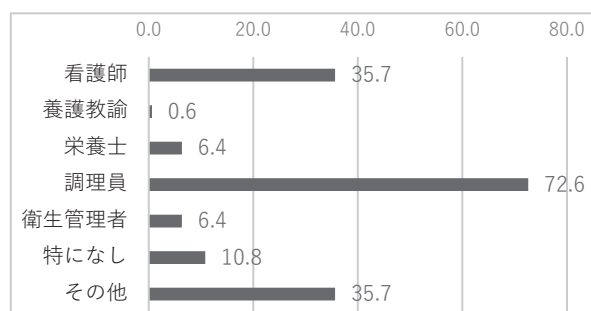


図 1. 幼稚園教諭又は保育教諭、保育士以外の職員の配置

表1.施設の属性

| | | 園児数 | | | | | 合計 (%) | |
|----|--------|----------|-----------|----------------|-----------------|------------------|-----------|-------------|
| | | 11人未満 | 20人未満 | 20人以上 60人未満 | 60人以上 120人未満 | 120人以上 200人未満 | | 200人以上 |
| 公立 | 幼稚園 | 1 | 2 | 5 | 2 | 0 | 1 | 11 (7.0%) |
| | 保育所 | 4 | 8 | 17 | 35 | 38 | 8 | 111 (70.7%) |
| | 認定こども園 | 0 | 0 | 6 | 4 | 4 | 0 | 14 (8.9%) |
| 私立 | 幼稚園 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 3 | 5 (3.2%) |
| | 保育所 | 0 | 0 | 0 | 3 | 8 | 1 | 12 (7.6%) |
| | 認定こども園 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 (0.6%) |
| | その他 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 3 (1.9%) |
| | 合計 (%) | 5 (3.2%) | 10 (6.4%) | 30 (19.1%) | 45 (28.7%) | 53 (33.8%) | 13 (8.3%) | |

看護師を配置している園は 35.7%あった。厚生労働省は、2008 年に「保育所における質の向上のためのアクションプログラム」³⁾を策定し、子どもの健康及び安全の確保の視点から、体調不良の子どもへの対応など健康面における対策の充実を図ることを目的として、保育所に看護師等の専門的職員の確保を推進している。看護師を配置している園の 89.3%は保育所であり、このアクションプログラムの効果を反映していることが推測された。また、全国保育園保健師看護師連絡会は、保育現場の負担や混乱から子どもたちの生活への影響を最小限にすることを目的として、2020 年 5 月に「保育現場のための新型コロナウイルス感染症対応ガイドブック第 1 版」⁴⁾を作成し、同年の 10 月には、第 2 版⁵⁾を作成しており、保育と看護の連携の重要性を述べている。コロナ禍において、看護師を配置することにより、医学的な知見を保育に反映することができると考えられ、保育現場における看護職との連携の重要性が期待される結果となった。

2. 消毒について

コロナ禍において、手指や共有物の消毒の必要性が指摘されており、保育現場において、どのように消毒を行っているかについて、回答を求めた。

(1) 施設の消毒

施設内の消毒の実施については、すべての園で実施されていた。消毒を行っている場所について、複数回答で回答を求めた。その結果を図 2 に示す。

机、椅子、ドアノブ、室内用玩具、トイレについては 90%以上の園で実施されており、子どもの接触頻度が多いことや共有して使用されることが多いもの

については消毒されていた。その反面、屋外で使用されるものについては、実施率が低くなっていた。その他として、窓や水道の蛇口、棚等も挙げられており、子どもたちが接触する場所を把握しながら、消毒を行っていることが推測される。

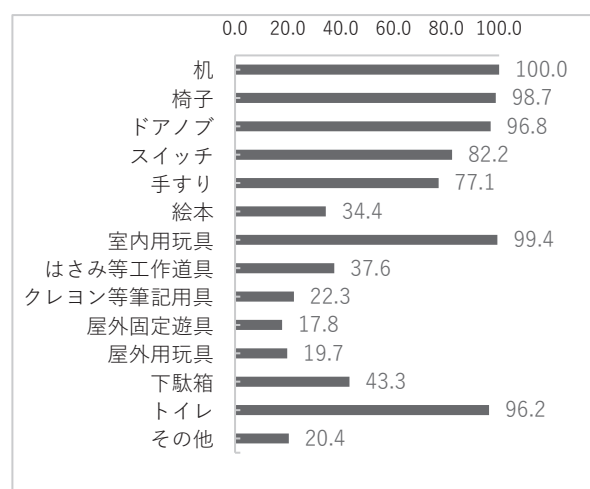


図2.消毒をする場所

(2) 消毒をする頻度

消毒をどのような時間に、どの程度行っているかについて、回答を求めた。その結果を図 3 に示す。

「園児の降園後に 1 回実施する」(40.8%) が最も多く、次いで、「その他」(35.0%)、「日に 2 回実施する」(19.1%) であった。「その他」の回答も多く、回数等を決めず、使用した際にその都度、消毒したり、消毒する場所によって、消毒する時間を変えたりする等、保育を行いながら、効率的に消毒するための工夫がなされている園も多く見られた。

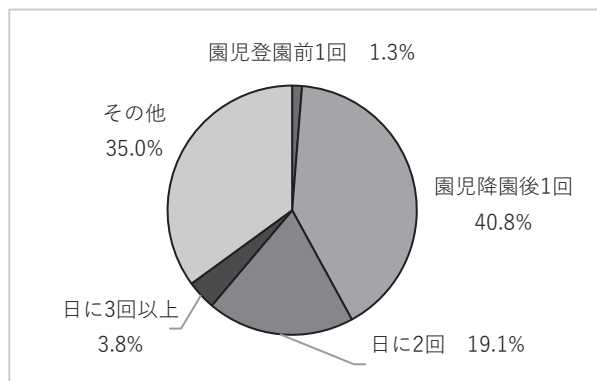


図3..消毒をする頻度

(3) 消毒時の薬品

消毒時に使用している薬品について、回答を求めた。その結果を図4に示す。

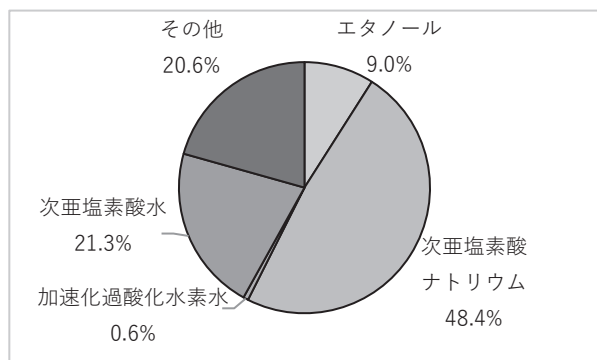


図4.消毒時の薬品

次亜塩素酸ナトリウム (48.4%) が最も多く、低い有効塩素濃度でも除菌力が高いとされる「次亜塩素酸水」(21.3%) を使用している園も多く見られた。消毒するものに応じて、薬品を使い分けていると回答する園もあり、薬品の効果と安全性の両視点を踏まえて、消毒を行っていることが推測された。

3. マスク着用について

保育中における保育者および子どものマスクの着用状況について、回答を求めた。その結果を図5、図6に示す。

保育者のマスクの着用については、81.5%の園が義務付けていた。熱中症対策として、周囲に誰もいない等の状況は外しているとの回答も見られたが、すべての園で原則、着用していることが明らかになった。

子どものマスクの着用については、「着用するようお願いしている」(47.8%) が最も多かった。「その

他」(24.2%) の回答が次に多く、熱中症予防のため、戸外で遊ぶ時や暑さ等の状況に応じて、外すようにしている等の回答が見られた。また、3歳以上児は着用をお願いしているが、3歳未満児は特に指示していない等の子どもの年齢によって、対応が異なる園も見られた。

夏季のマスクの着用は、熱中症になる可能性が指摘されていることから、状況に応じて保育者が判断し、指導していることも明らかになった。

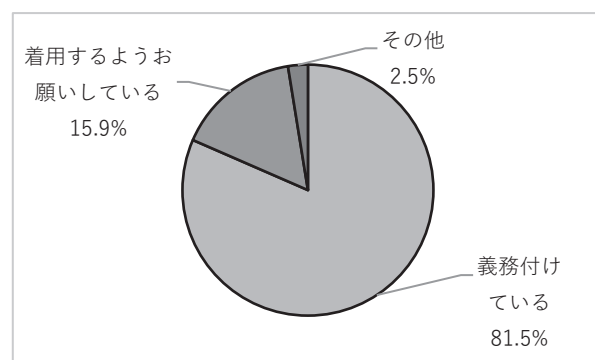


図5.保育者のマスクの着用状況

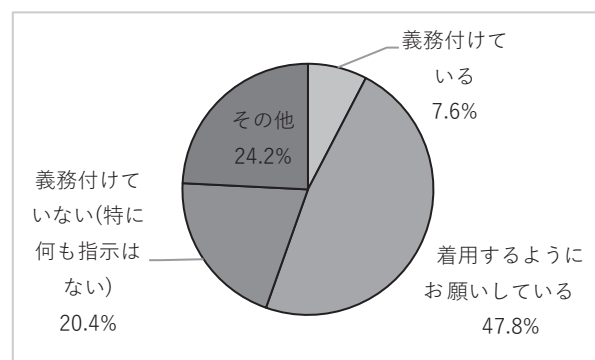


図6.子どものマスクの着用状況

また、「活動中に子どもはマスクを取りたがると思いますが、どのような対応をしていますか」について自由回答で回答を求めた。「基本的に着用するよう声をかけているが無理強いはしない。」「必要性を話しながら着用するよう声をかける。」「密にならないように遊びの場を工夫する。」等の回答が見られ、子どもの負担にならないように配慮しながら、マスクの必要性を丁寧に伝え、対応している様子が窺えた。

一方で、保育者や子どもがマスクを着用することに対して、相手の表情を読み取りにくいことが指摘されており、他者とのコミュニケーションを確立していく時期であることを考えると、今後も常にマスクを着用することの弊害が心配される。感染状況に

応じて、マスクの着用についても検討していく必要があるのではないかと考えられる。

4. 生活場面の感染予防対策について

(1) 保育中の換気

保育中にどのように換気を行っているかについて回答を求めた。その結果を図7に示す。

「常に窓とドアを開けている」(47.8%)が最も多く、次いで「常に窓を開けている」(39.5%)、「時間を決めて定期的に換気している」(10.8%)であった。87.3%の園が常に換気をしており、密閉した状況を作らないように配慮していることが窺えた。

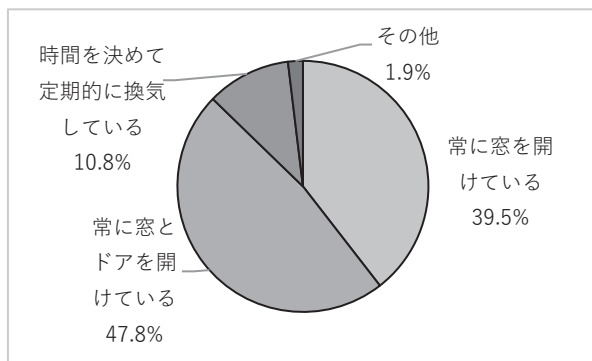


図7.保育中の換気

(2) 日常の保育活動で控えていること

日常の保育活動の中で控えていることについて、回答を求めた。その結果を図8に示す。

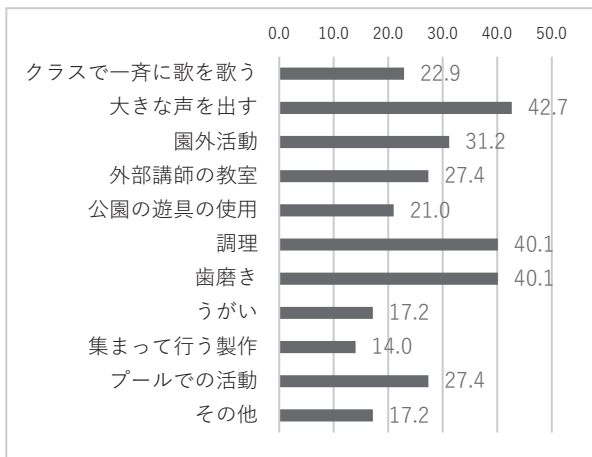


図8.日常の保育活動で控えていること

「大きな声を出す」(42.7%)が最も多く、次いで「調理」(40.1%)、「歯磨き」(40.1%)、「園外活動」(31.2%)、「外部講師の教室」(27.4%)、「プールで

の活動」(27.4%)であった。飛沫が飛んでしまうことが予想される活動や普段、接触しない人との関わりがある活動について、控えている傾向が見られた。感染のリスクがあるものの、歯磨きやうがいをするのが控えられていることから生活習慣を身につけていく時期にこれらの活動が制限されることは、それに伴う健康への影響や生活習慣を確立していくことへの弊害が危惧された。

保育者や子どもを感染から守ることと子どもにとって必要な経験の両視点から考え、子どもの育ちを保証する保育の方法を模索しながら、日々、取り組んでいることが分かる。コロナ禍における保育実践を集積し、子どもにとってより良い方法を探求することが今後の課題であると言える。

(3) 保育場面における新型コロナウイルス感染症対策について

保育場面において、どのような新型コロナウイルス感染症対策を行っているかについて、屋外で一斉活動をする場面、屋外で自由遊びをする場面、室内で一斉活動をする場面、室内で自由遊びをする場面、食事場面の5つの場面毎に回答を求めた。その結果を図9～13に示す。

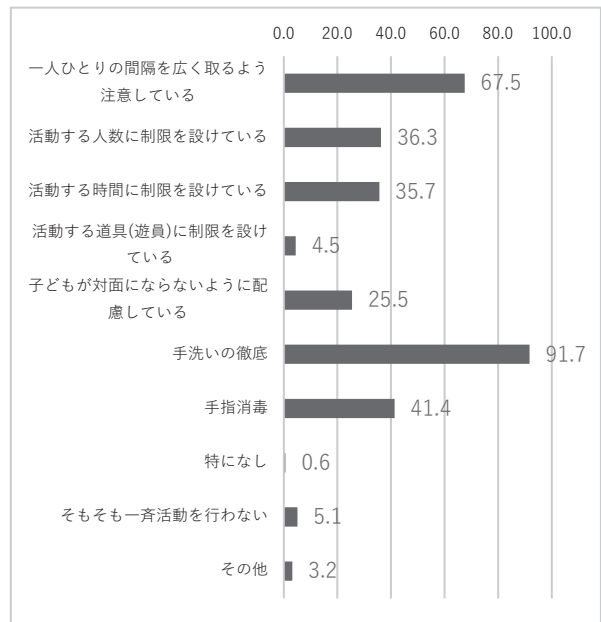


図9.屋外で一斉活動を行う際に新型コロナウイルス感染症対策で取り組んでいること

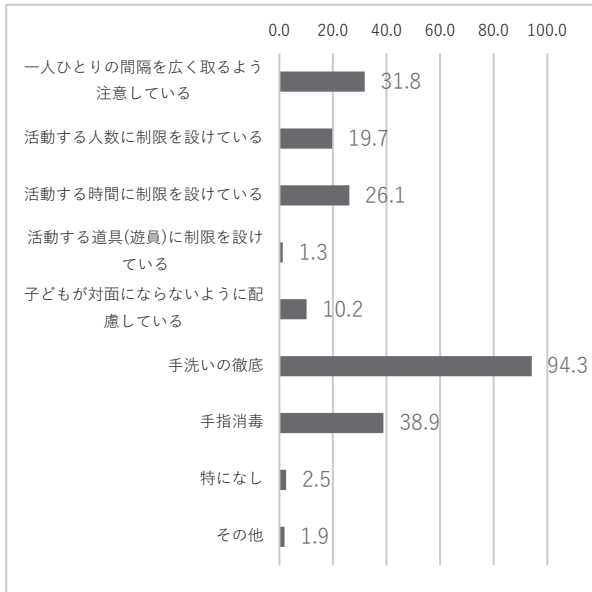


図 10.屋外で自由遊びを行う際に新型コロナウイルス感染症対策で取り組んでいること

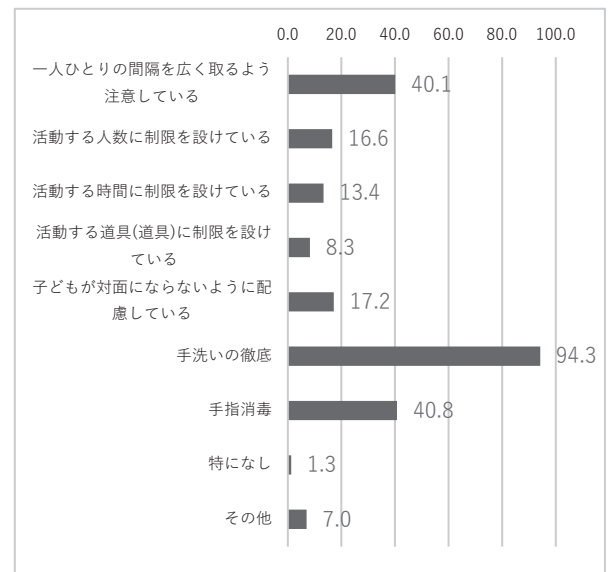


図 12.室内で自由遊びを行う際に新型コロナウイルス感染症対策で取り組んでいること

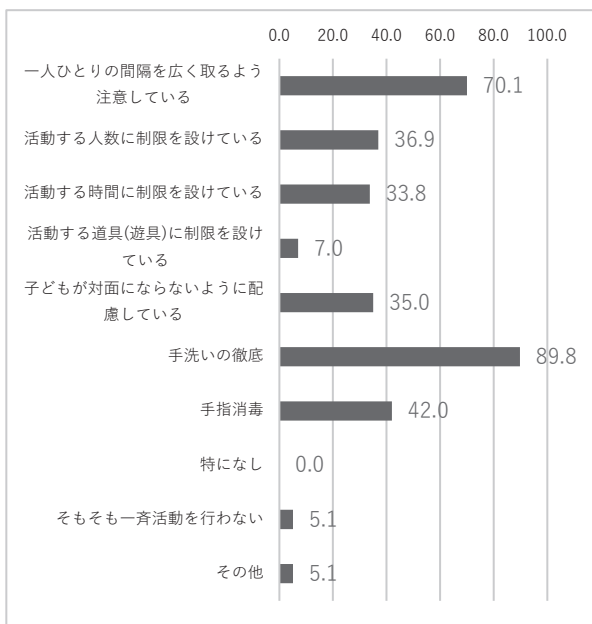


図 11.室内で一斉活動を行う際に新型コロナウイルス感染症対策で取り組んでいること

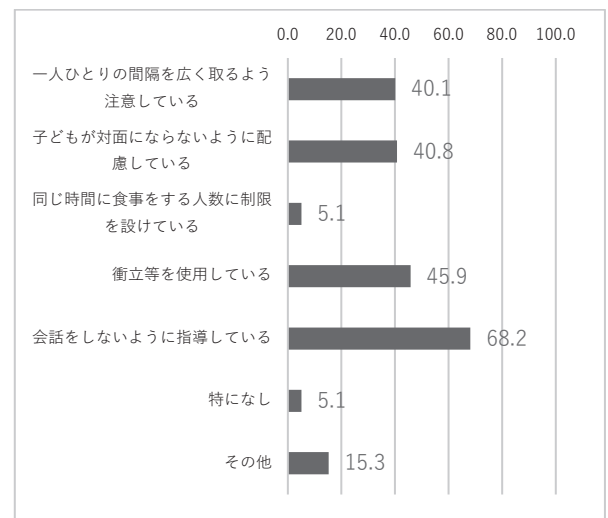


図 13.食事をする際に新型コロナウイルス感染症対策で取り組んでいること

室内での活動は、換気に加えて、密集や密接を避けるため、子ども同士の間隔を広く取るように配慮している園が多く見られ、屋外での活動よりも室内での活動の際に、子ども同士の距離に注意が払われていることが分かる。

屋外での活動は、室内での活動に比べて、活動する時間に制限を設けている園が多く、限られた園庭の中で園の子どもたちが密集、密接しないための配慮がなされていた。

保育者は、子どもの活動場所や活動形態に応じて、必要な対策を判断し、保育を行っている。しかし、

保育者の判断に委ねられている部分が多いことが推測され、医学的な専門職との連携も必要ではないかと考えられた。

食事場面では、「黙食」という言葉に表されるように会話をしないように指導している園が最も多かった(68.2%)。また、飛沫を防止するための衝立等を使用している園も半数近く見られた。また、「子ども同士の間隔を広く取るように注意している」(40.1%)や「子どもが対面にならないように配慮している」

(40.8%)については、質問した5場面の中で最も多く取り組まれていた。食事場面における感染拡大が指摘されていることから、幼稚園や保育所等においても食事場面では特に留意して感染症対策に取り組んでいた。子どもたちは友達や保育者と一緒に食事を取り、その中でコミュニケーションを取りながら、食への興味・関心を深めていく。コロナ禍において、会話をせず、子ども同士が広く距離を取りながら、一人一人が食事をするのは、子どもの育ちの視点からは様々な懸念がある。感染症対策を取りながらも、食を通じた友達や保育者とのコミュニケーションが取れる方法を考えていくことも課題ではないかと考える。

5. 園の行事の感染予防対策について

新型コロナウイルスの影響により開催を中止、もしくは今後中止を検討している行事の有無と行事の内容を見直した、もしくは見直しを検討している行事の有無について、回答を求めた。結果を図14、図15に示す。

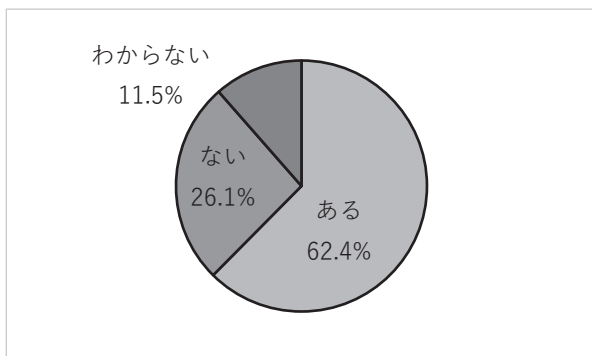


図14.新型コロナウイルスの影響により開催を中止、今後中止を検討している行事の有無

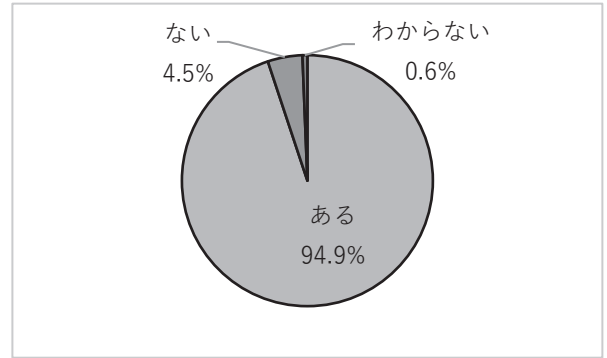


図15.行事の内容を見直した、見直しを検討している行事の有無

新型コロナウイルス感染症の影響により62.4%の園が行事を中止もしくは今後中止を検討していた。また、行事の内容の見直しや見直しの検討については、94.9%の園で行われていた。

中止や中止を検討している行事では、保育参観や祖父母の会、親子遠足等の回答が多く見られた。子どもや保護者が多数の人と接触することが予想される行事について、中止をすることが検討されていることが分かる。これらの行事は、保護者が子どもの成長や育ちを実感することができ、子育て支援の一端を担う行事である。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により中止されている現状を考えると、子育て支援の方法についても検討が必要ではないかと考えられる。

内容の見直しや見直しを検討している行事では、運動会や発表会等の回答が多く見られた。種目や発表内容等のプログラムを見直したり、これまで園全体で行っていたものを学年や年齢毎など分散したりする方法が取られていた。

これまで当たり前に行うことができていた行事が新型コロナウイルス感染症の影響により制限される状況の中で、保育者は子どもの育ちにとって何が必要なのかを検討し、模索しながら保育を行っている。行事を含めた保育を見直す中で、どのような経験が子どものどのような育ちに繋がるかを検証し、情報を共有・蓄積していくことがwithコロナ、afterコロナの時代に向けて、必要な取り組みであると考えられる。

まとめ

本調査において、以下のことを明らかにすることができた。

1. 新型コロナウイルス感染症対策については、

その場面や子どもの状況に応じて、保育者が模索しながら取り組んでいる。

2. マスクの着用や保育活動中の感染症対策については、子どもの負担にならないように配慮しながら行われている。
3. これまで当たり前に行われてきた活動や行事が制限される中、子どもの育ちにとって必要な経験と感染症のリスクを天秤にかけながら、その都度、保育者が判断し、保育が営まれている。

本調査は新型コロナウイルス感染症の影響下における保育の実態を明らかにすることを目的とした。今後は、新型コロナウイルス感染症の影響下で保育を行うにあたって、保育者自身がもつ悩みや不安、困難さ等を調査し、分析することを通して、保育の一助になる研究を行っていきたいと考える。

また、新型コロナウイルス感染症の影響下において模索的に保育が行われている現状がある。その保育に対する情報を蓄積し、共有化していくことにより、with コロナ、after コロナの時代における保育の在り方を検討することができると考える。そのため、今後も調査を継続し、情報を発信していきたいと考える。

引用文献

- 1)『新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) WHO 公式情報特設ページ』
https://extranet.who.int/kobe_centre/ja/covid(最終閲覧日: 2021年11月29日)
- 2)NHK 『特設サイト 新型コロナウイルス』
<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/data/>
(最終閲覧日: 2021年11月29日)
- 3)厚生労働省雇用均等・児童家庭局長(2008)「保育所における質の向上のためのアクションプログラム」
雇児発第0328001号 別添4
- 4)全国保育園保健師看護師連絡会(2020)『保育現場のための新型コロナウイルス感染症対応ガイドブック第1版』
<https://www.hoiku-kango.jp/index.php/2020/05/26/1215/>
(最終閲覧日: 2021年11月29日)
- 5)全国保育園保健師看護師連絡会(2020)『保育現場のための新型コロナウイルス感染症対応ガイドブック第2版』
<https://www.hoiku-kango.jp/index.php/2020/10/10/2210/>(最終閲覧日:

2021年11月30日)

参考文献

- ・横井良憲、鈴木裕子(2021)「新型コロナウイルス感染症 COVID-19 の中での保育施設の課題」『愛知教育大学教職キャリアセンター紀要』第6号, pp.19-26
- ・小田幹雄、橋浦孝明(2021)「宮城県仙台市における保育現場の新型コロナウイルス感染症対策の現状について(第1報)」『羽陽学園短期大学紀要』(11)3, pp.33-50
- ・宮澤礼子、田宮縁(2021)「静岡県における「感染症対策指導支援事業」の成果と課題:新型コロナウイルス感染症対策を通して得られた保育者の知見」『静岡大学教育実践総合センター紀要』31, pp.29-40
- ・溝田浩二、佐藤みちる(2021)「新型コロナウイルス感染症は保育現場にどのような影響を与えたのか—宮城教育大学附属幼稚園におけるアンケート調査から—」『宮城教育大学 環境教育研究紀要』23, pp.15-24
- ・公益社団法人 全国私立保育連盟 「『新型コロナウイルス感染症に関する調査2021』報告書」
https://www.zenshihoren.or.jp/pdf/tyousa_20210826.pdf
(最終閲覧日: 2021年11月29日)
- ・芦澤清音、山本理絵 他「コロナ禍で保育者はどのように保育をしているのか—障がい児および外国人幼児を含む保育の実態調査(速報)—」『帝京大学教育学部紀要』9, pp.115-123

謝辞

本論文執筆にあたり、小原幹代准教授(岡崎女子短期大学幼児教育学科)にアンケート調査へのご協力をいただきましたことを深くお礼申し上げます。